

Lao Friends Hospital for Children



ラオス訪問 レポート

2025年2月12日～16日

概要



PAGE 03

今回の訪問の目的

PAGE 04~05

1日目：日本人の集い・夕食会

PAGE 06~08

2日目：10周年記念式典
象の保護区・パーシーセレモニー
スタッフパーティー

PAGE 09~12

3日目：訪問看護
夕食会

PAGE 13

今後の支援活動

今回の訪問の目的

ラオ・フレンズ小児病棟（LFHC）開院10周年記念式典に参加するために、2025年2月12日～16日の間にラオスのルアンパバーンに訪問しました。

2015年2月に設立されたラオ・フレンズ病院の10年の歩みを現地で感じることも目的の1つですが、前回同行した訪問看護に再度同行すること、adopt a doctorとして支援している2名の医師に直接会うことも今回のラオス訪問の目的でした。

式典では、様々なイベントを準備していただき毎日新しい体験をすることができました。訪問看護も昨年同行させていただいて実際にご家族と話したりしましたが、今回の同行ではまた新しい気づきだったり、各家族のそれぞれのストーリーがあったりと何度体験しても学ぶことが多い訪問看護となりました。支援させていただいている医師2名にも実際に会うことができ、握手をかわしお話できたことが私の中で一番嬉しい出来事でした。

こんなラオス訪問でしたが、詳細を報告いたしますので是非ご覧ください。

株式会社トリニティ 代表取締役 梅田嗣雄

1日目

日本人の集い

メコン川クルーズ

クルーズに乗ってメコン川を渡りました。クルーズの移動中には地元の学生たちがラオスの伝統ダンスを披露してくれたり、マッサージなどのおもてなしをしていただきました。

この時、ロータリークラブの皆様や、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーの創設者でもある井津建郎さんにお会いしました。建郎さんからは団体の創設にまつわるお話など貴重な話を聞くことができました。



写真向かって右がフレンズジャパン代表赤尾様
真ん中がフレンズ創設者井津様



メコン川を渡って、パークウー洞窟に行きました。洞窟の中には数えきれない数の仏像が置いてあり、その光景は他の寺院とは雰囲気は全く違う、とても神聖な場所でした。



1日目 夕食会

Manda de Laos

夕食会では、会場のManda de Laosで世界中から集まった支援者の方々やフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーの関係者の方々との交流ができました。

世界各国のフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーの理事の方々と交流する機会がありました。

ニューヨークやロサンゼルスから式典に参加されており、これまでの支援の経緯などを聞くことができ感銘を受けました。



夕食のメニューはラオス料理が振る舞われました。特にルアンパバーン名物のバッファローがとても美味しかったです。ラオスは香草を使った料理が多いです。

2日目 10周年記念式典

10周年記念式典では、ラオ・フレンズ小児病棟（LFHC）のこれまでの歩み、これからの活動についてのお話がありました。式典は病院内の待合場所となっているスペースで開かれました。

開院当初は外来診療のみで始まり、数ヶ月後には入院病棟と手術室、半年後には救急病棟。3年後には新生児病棟、7年後にはICU（集中治療室）を開設し、確実に活動の改善を感じました。スタッフも倍以上に増え、10年前は現地人のスタッフがリーダーとして少ない中、この10年間でスタッフメンバーが成長して、今ではリーダーはほぼラオス人という構成になっています。

印象に残っているのは、「緩和ケア」「看取り」に力を入れていきたいということです。LFHCでは病気を治療するだけでなく患者さんのために疾患の完治がなくとも不快な症状を取り除くことに目を向ける「緩和ケア」や「看取り」に関わることはまさにフレンズ様が目座ず「Compassionate care」であると感じました。

また式典当日は、理事局の方達など世界中から多くの方が駆けつけている光景を目の当たりにして、これだけの方がラオスの子ども達のより良い未来を願っているのだと実感して胸が熱くなりました。



2日目

象の保護区・パーシーセレモニー

象の保護区 Mandalao

このMandalao Elephant Conservationでは、象の保護を行っています。マンダラオにいる象は4歳～60歳という幅広い年齢層で、劣悪な環境下で人生の大半を過ごしてきた象たちが保護されています。マンダラオでは、象を操るための鋭く尖った道具などは一切使用しません。また、人間と触れ合うのも必要最低限としています。

また、保護した象を野生に返すということも大切にしています。



パーシーセレモニー

パーシーセレモニーは、地元で結婚式や家を購入した時などのお祝いの時に開かれる儀式です。実際に地元の方と一緒にパーシーの儀式を体験しました。お祈りをした後に、手首に紐を巻いてもらい、その後にお菓子やお酒を配ってもらいます。



2日目 スタッフパーティー

スタッフパーティーではラオ・フレンズ小児病棟で働くスタッフのためのパーティです。開院してから10年間勤務しているスタッフの表彰式などが開かれました。カラオケ、ダンスをしてみんな楽しそうに過ごしていました。

adopt a doctorのソムチッタナ医師(右)と弊社代表梅田(左)→



実はこのスタッフパーティーで支援させていた
だいている2名の医師に実際に会うことができた。
ました。

赤尾先生から普段から2名の活躍のお話は聞いて
おりましたg、こうやって実際に会うことができた
のは貴重な時間でした。



←adopt a doctorのブンミー医師(右)と弊社代表梅田(左)

3日目 ～訪問看護～

1件目

モン族の家族

13歳の女の子 イエラオちゃん

原因不明でいきなり脚が悪くなり歩けなくなっていました。

ご両親も、信仰の関係で病気を理解できずに、治療に協力的ではありませんでしたが、モン族の言語でコミュニケーションをとり続け、説得することでご両親も向き合ってくれるようになりました。

最初の頃は、歩けるようになりたいとリハビリを頑張っていました。が、段々と悪くなる脚の状態。両親が農作業で忙しく彼女のお世話をしあがられる時間がなく、トイレも垂れ流しになってしまったりという状況に彼女本人もモチベーションが下がってしまいました。

車椅子に乗せて寝たきりにならないようにします。また、学校にも行けるように学校と交渉して、やっと学校に行けるようになりました。

文房具なども、文房具屋さんに状況を説明したら寄付してくれたそうです。



3日目

～訪問看護～

2件目

白血病の13歳の女の子。

昨年白血病ということがわかりました。最初はお父さんだけが白血病だという事実を知り、お母さんや本人にもその事実を伝えられなかったそうですが、1人では抱えきれずに家族全員が彼女が白血病だということを知ることになります。延命治療はしないと家族が決断したため、緩和ケアに移行しています。

実際に訪問したときも、耳が悪くなっている状態でしたがお母さんの声はよく聞こえるようです。腹痛もあるみたいで、地元の間で知られるハーブの実のような物を食べたら痛さが和らいだようです。今後はモルヒネを少しづつ投与して痛みに対応していくそうです。

また、本人も治らない病気だということを理解しており、先ももう長くないだろうということで彼女のやりたいことを叶えてあげるために、翌週にお母さんと一緒にフラワーガーデンに行きたいと言っていました。それを聞いたお母さんは耐えきれず涙を流していました。



3日目

～訪問看護～

3件目

障害のある9歳の女の子。

お母さんは耳が悪く、お父さんは話すことが難しいそうです。ご両親にも障害がありますが、ちゃんとケアしているためこの子は会話が上手です。

2、3年前に学校へ通えないかと交渉しましたが、学校まで通学するのが難しいことから学校側からのNGが出ました。お姉さんが学校で習ったことを妹に教えているようです。

ご両親は共働きのため、訪問時も女の子が1人で玄関先で車椅子に座って過ごしていました。トイレも自分で行けないため、おしっこも垂れ流しになっていました。お姉さんが学校から帰ってきたら、お風呂に入れて、着替えをさせていました。お風呂といっても、近くの池から汲んできた水で決して綺麗な水ではありません。また乾季だったため、水も少なく水不足の問題もあります。

ラオスの保険制度は日本とは異なり、保険に積み立てるお金よりもその日を生き抜くことのほうが重要なため、基本的に積立保険はしないようです。



3日目 夕食会

最終日の夕食会では、ラオスの民族衣装を着て食事をしました。みんなが着飾って楽しい時間でした。

食事会の後は、ルアンパバーンの街の中にあるバーでみんなでお酒を飲みながら、カンボジアでの活動の思い出話や、ラオ・フレンズ小児病棟でのこれからの支援についたりの話で盛り上がり楽しい時間となりました。



今後の支援活動

人件費の支援

2回目となる、トリニティから150万円。
梅田社長個人で150万円の支援をさせていただきました。

〈小児科の医師2名分の人件費〉
ブンミー医師 年間150万円
ソムチッタナ医師 年間150万円

今回実際に会ってお話もすることができたブンミー医師とソムチッタナ医師に支援をさせていただき、2名がラオスの子供達の命を救うことを願ってできるだけの支援を続けたいと思います。

